

## 令和4年度第1回埼玉県立図書館協議会 議事録

### ◇ 日 時

令和4年7月13日（水）午後2時00分から午後4時00分まで

### ◇ 場 所

久喜総合文化会館 2階 研修室3 久喜市下早見140番地

### ◇ 出席者

#### (1) 出席委員

須田俊弥委員、宮崎正子委員、尾崎尚子委員、後藤悦子委員、  
下村恵久子委員、文屋芳浩委員、青野正太委員、小澤嘉昭委員、  
神原和子委員、後藤愛委員、澁谷知範委員、西山富由紀委員、松本直樹委員

#### (2) 図書館職員

##### 【熊谷図書館】

加藤健次館長、川目晴久副館長、峰岸まり子副館長、栗林雅志担当部長、  
神原陽子司書主幹

##### 【久喜図書館】

上松寿明館長、押江成行副館長、蓮見博副参事兼副館長、高野治子主席司書主幹、  
関信子司書主幹、川田明秀担当課長

#### (3) 教育局職員

中澤幹雄生涯学習推進課副課長

### ◇ 会議次第

1 開 会 [熊谷図書館 川目副館長]

2 あいさつ 久喜図書館長 上松 寿明

3 任命状交付 さいたま市立中央図書館長 尾崎 尚子

4 会長・副会長選出

互選により会長には神原委員が、副会長には松本委員が選出され、了承された。

5 会長・副会長あいさつ

6 事務局職員紹介

7 会議録署名委員の指名

会長が文屋委員と西山委員を指名し、了承された。

8 会議を公開することについての議決

会長が会議を公開とする旨を発言し了承された。

また、本日の会議では傍聴者はいないことが確認された。

## 9 議事

(1) 令和3年度事業実施状況について

(2) 令和4年度予算及び事業について

資料1「令和3年度事業実施状況について」及び資料2「令和4年度予算及び事業について」に基づき一括して説明及び質疑

### 【質疑】

委員：埼玉県図書館協会の主催事業で様々な研修事業を実施していただいております。そのなかで対面、オンラインや配信という形式で行っていてその効果、例えば配信にすると参加者が多いなどということについてどのように考えていますか。

事務局：オンラインでは場所にとらわれず参加できるとともに対面による研修よりも多くの方に参加をしていただけます。また、動画配信では研修対象の方でなくとも視聴することができるなどの効果があります。一方で技術を身に付ける又はコミュニケーションを図る必要があるなどの研修は対面が効果的であると考えています。今年度も新型コロナウイルス感染防止対策によりオンラインや動画配信などを中心に行っていますが、今後は対面、オンラインの良いところを取り入れて多くの方に参加いただけるよう努めてまいります。

委員：新型コロナが収束したのちは研修を通じていろいろな方と知り合えるなどのメリットがある対面による研修を実施するなど、その研修の性質や目的などにあわせて実施していただきたい。一方で会場に集まるということになると交通費負担や研修中は図書館に担当者が不在となるなどの課題があるのでオンラインなどの研修も継続して実施してほしい。

会長：児童図書サービスを担当している久喜図書館よりも児童図書の貸出冊数が熊谷図書館の方が多いのはなぜですか。久喜図書館よりも熊谷図書館の図書は古いことを考えると熊谷図書館が特別なことを行っているためでしょうか。又は奉仕地域が広いということによるのでしょうか。

事務局：以前から熊谷図書館の児童図書の貸出冊数は久喜図書館に比べて多いと認識しています。熊谷図書館は久喜図書館と比較して購入予算も少なく

資料も久喜図書館と比較して古いのですが、図書館未設置の市町村を対象とした配本所のために一般図書や児童図書を購入しており、その新しい資料を利用者に貸し出すことをしています。そのようなことが理由の一つかと思えます。

- (3) 埼玉県立図書館運営の重点目標（令和元～3年度）の実績と評価について  
資料3「埼玉県立図書館運営の重点目標(令和元～3年度)の実績と評価について」に基づき説明

**【質疑】**

会長：去る6月22日に私のほか、青野委員、澁谷委員、西山委員の4名からなる「サービス評価小委員会」において詳細に協議しましたことをまずは報告させていただきます。

その小委員会では、目標値がコロナ前に設定されたということを考慮した様々な意見が出されました。しかし、昨年度、事務局から設定した目標値については変更しないで事業を進めると方針が示されていました。コロナ禍という状況でありながら今説明されたような実績値を上げていることから委員からは事務局の提案よりも高い評価をつけるべきであるという意見も出され事務局案を修正したものもあります。本議案について各委員からも御意見をいただきたいと思えます。

委員：コロナ禍の状況でありながら多くの実績を上げたことを小委員会で評価されたことはよかったです。一方、コロナ禍という今までにない特異な状況にあって目標値を変更しないというのはどうしてなのでしょう。

事務局：コロナ禍にあって3年計画の途中でも目標値を変更すべきではないかとの検討をしました。しかしながら今までにない先行きが不透明な状況でどのように目標値を設定すれば適正かどうかということが見出すことができませんでした。様々な要因で図書館を取り巻く環境が変化するため目標値を変更するよりも当初に設定したものに照らして客観的に評価を判断すべきではないかということで変更はしませんでした。

委員：確かに今の状況では先を見通すことは難しいと思えます。

会長：当初の目標値を変更しないという方針でしたので昨年度の評価では新型コロナウイルス感染拡大による来館者サービスの中止などについて資料

前段で言及しました。

委員：評価理由についての的確に表現されていると思います。その評価の対象となる目標値の設定の方法はどのように行っているのでしょうか。

事務局：今期の目標値の設定は前期の実績値の平均や最終年の実績値などを基準として設定しております。

委員：重点目標3「県民への学習機会の提供の充実」では様々な取組が行われていることが伺えます。コロナ前に設定された目標値に対しての「3」という評価とは思いますがコロナ感染防止対策により参加者が少なくなっていることを考慮するともう一つ上の評価をつけてもいいのではないのでしょうか。

また、図書館の様々な取組にさらに多くの子供たちに参加し学んでほしいと思っています。そのためには様々な周知方法を進めてください。

#### (4) 埼玉県立図書館運営の重点目標（令和元～3年度）の最終評価について

資料4「埼玉県立図書館運営の重点目標（令和元～3年度）の最終評価について」に基づき説明

##### 【質疑】

会長：小委員会では年度ごとに評価を2、3、4という改善している状況であっても3でいいのか、3年間の平均値が3点いくつかのときは3とすべきか4とすべきかなど様々な意見が出されました。年度ごとに改善が見て取れば4と修正した場合もあり、一方で改善が見て取れる場合で3とした項目では足りなかった点を参考に次期重点目標の推進に努めたいという事務局の意向を尊重して評価をしました。各委員からも最終評価について意見、感想などをいただきたいと思います。

委員：この重点目標が設定されている経緯というものがあれば説明をお願いしたい。また、埼玉県5か年計画など5年という期間の計画が多いが、この重点目標は3年と短い期間であるがその理由もお願いしたい。

事務局：埼玉県の中心的な計画では5年のものが多くありますが、各分野に分かれた計画では3年を計画期間としたものもあります。

事務局：以前はこの重点目標は1年計画でした。1年という期間ではその目標値を達成するために工夫を凝らした取組を行うことが難しいということもあり前回の計画から3年としたところです。

委員：中期の基本計画を位置づけ、その中で細分化した短期の計画を策定し目標を設定するのも検討課題かと思います。

(5) 埼玉県立図書館運営の重点目標・重点取組・評価指標(令和4～6年度)について  
資料5「埼玉県立図書館運営の重点目標・重点取組・評価指標(令和4～6年度)について」に基づき説明

**【質疑】**

会長：今期の重点目標では資料の収集・保存に関するものを5番目に位置付けていましたが、図書館として資料収集保存は重要な位置を占めることから小委員会の意見により次期の重点目標では1に変更しました。

委員：すでに計画年度が始まっていますが、今日の協議会の意見はどのような位置付けなのでしょう。

事務局：この重点目標については熊谷図書館、久喜図書館の両館長で協議し決定したところです。皆様の御意見については事業実施に際して反映させていただきたいと考えています。

委員：2の2の「カウンターワークのデジタル化の推進」についてですが、今、DXという言葉がいろいろなところで使われています。カウンターワーク以外にも様々な業務にデジタル技術を使っていこうという流れがありますが、カウンターワークである貸出、返却や予約などの業務のほか、リモートワークに対応したもう少し広い業務のデジタル化もあるのではないのでしょうか。

事務局：図書館として中長期的な課題としてDX化にも取り組んでいかなければならないと考えています。カウンターワークのデジタル化以外にもチームを編成して取組を検討しているところです。

委員：3の3にある「埼玉サーチ」は「ジャパンサーチ」に加わっていないのですか。

事務局：「ジャパンサーチ」については現在、参加する準備を進めているところです。

委員：参加を進めていただきたいと思います。また、市町村とのつなぎ役という県の役割からも市町村のジャパンサーチへの参加などを進めていただきたいと思います。そのような点も県立図書館に求められていると思うので事業展開にも反映させてほしいと思います。

委員：続いて3の4「電子書籍導入方法の検討」ですが、最近は電子書籍、電子図書だけでなく電子雑誌などもサービスとして出てきています。ストリーミングサービスを図書館が提供するというところもあるので電子書籍と限定しないで幅を広げる取組を行っていく必要があるのではないのでしょうか。また、県内の図書館がそれぞれで電子書籍などを導入すると価格の点で貸出を限定されてしまうこともあるので、コンソーシアムのような連携をして導入するという方向性も難しいとは思いますがあるのではないのでしょうか。

事務局：長野県立図書館では長野県内全図書館のコンソーシアムについて研究していると聞いています。埼玉県でどのような形式で導入できるかはこれからとなりますが各方面の事例をみて検討していきたいと考えています。

委員：重点取組5の1「県内市町村立図書館・学校図書館、関係機関等への運営支援と連携の充実」の「学校図書館を支援し、多様なニーズに対応する」とありますが、今、検討しているものがあれば教えてください。

事務局：久喜図書館の子ども読書推進担当で学校支援の取組を行っています。現在の取組としては学校図書館の司書の方や学校図書館に関わっている方を対象とした学校図書館活用講座を今年度も開催する予定です。また、学校図書館へは調べ学習などのための学校支援セットという図書のセットを用意しており、要望に応じて団体などに貸し出しを行っています。

また、近年は特別支援学校の生徒が増えており、分校が設置されるなどの動きがあることもあり、各学校の図書館運営を支援するための講座を開催しています。今年度は8月に戸田の特別支援学校を会場に開催する予定です。今後も引き続きどのように学校を支援していくか検討していきます。

委員：7ページの5の4「横断検索機能の拡充」の『埼玉県内公立図書館等横断検索』の参加館を増やし、県内所蔵資料の活用を促進する」とあるがどのくらいの図書館が参加していますか。

事務局：現在、横断検索の対象となっているのが2県立図書館、60市町村、2大学及びその他さいたま文学館や県民活動総合センターなど7機関です。

委員：数値目標の位置づけについて確認させていただきたい。例えば重点目標5の投入指標だが、それぞれの年度は30回、3年合計で90回となります。最終評価は90回という合計で行うのでしょうか。例えば令和4年度及び5年度で45回ずつ90回となればその時点で最終目標を達成した

ものとみなすのでしょうか。また、期間全体での数値目標は設定しているのでしょうか。

事務局：それぞれの年度において提供するサービスの目標値を設定しているので令和4年度、5年度でそれぞれ30回であった場合でも令和6年度がゼロであればその問題点などを勘案して最終評価を行います。

委員：確かに最終評価は外部要因なども含めて行うべきだと考えます。3か年の合計数値を最終年度の評価数値としないで各年度のもので評価するのでしょうか。

事務局：年度ごとに設定した数値目標で評価を行い、その評価をもとに最終評価を行いますので最終評価を行うための目標値というものは設定していません。

(6) その他  
なし

以上